

新会長就任のごあいさつ



フォーラム顔学 2017 顔作品と共に

2018 年より四代目日本顔学会会長に就任いたしました菅沼薫です。

昨年 9 月の総会でみなさまからご承認をいただき新年を迎え、心を新たにしています。

思えば顔学会とののはじまりは学会創立前の 1993 年に遡り、新聞に掲載された男子東大生の平均顔を見た時からです。それは、前職である美容科学研究室の研究者として働いていた私が「顔と化粧による印象解析研究」についてアドバイスをいただけるのではないかと思います、東京大学の原島博先生（二代目会長）に取材申込みをしたのが発端でした。会社はフジテレビ商品

研究所という別称で生活誌 ESSE の協力もしており、メディア関係者による取材というかたちでお会いできました。同年に開催された第 2 回シンポジウム「顔」にも参加し、顔研究者ネットワークのメンバーとして登録させていただきました。それから勉強会や公開シンポジウムなどのお手伝いなどをするようになり、今日まで続いています。

現在、日本化粧品技術者会、日本化粧品学会など学術団体の役員を継続しながら、フリーのビューティ&ライフサイエンティストとして活動しています。これからの会員増につながるように、化粧品や美容関係の研究者との繋がりもさらに強くしていきたいと思っています。

フォーラム顔学でも活発な研究発表が繰り広げられ、会員の懇親が深められています。また、かつて年 1 回 2004 年まで 13 回の公開シンポジウム「顔」を開催していました。フォーラムと違って、こちらも毎回楽しい企画で会場に笑顔あふれるものでした。近い将来にはこのような企画を再開し、一般の方にも楽しんで「顔学」に触れてもらえるようにできたらなあと思っています。

日本顔学会は創立 23 年目に入ります。現在会員数は約 600 名、専門は多彩で、多様な分野から成っています。また聞き言葉で恐縮ですが、米国 MIT の科学者が「クリエイティブは異質な出会いによって起こり、ぶつかり合いの場で鍛えられる」と言っています。異質な出会いという点では、多様で多彩な人が集まる日本顔学会は、クリエイトするのに最も適した場といえるでしょう。「会長の役割は場をつくること」と、奥水、原島両先輩会長から言われているように、その実現のためにみなさまと共に頑張っていこうと思います。

どうぞよろしくお願いいたします(^^) /

菅沼 薫